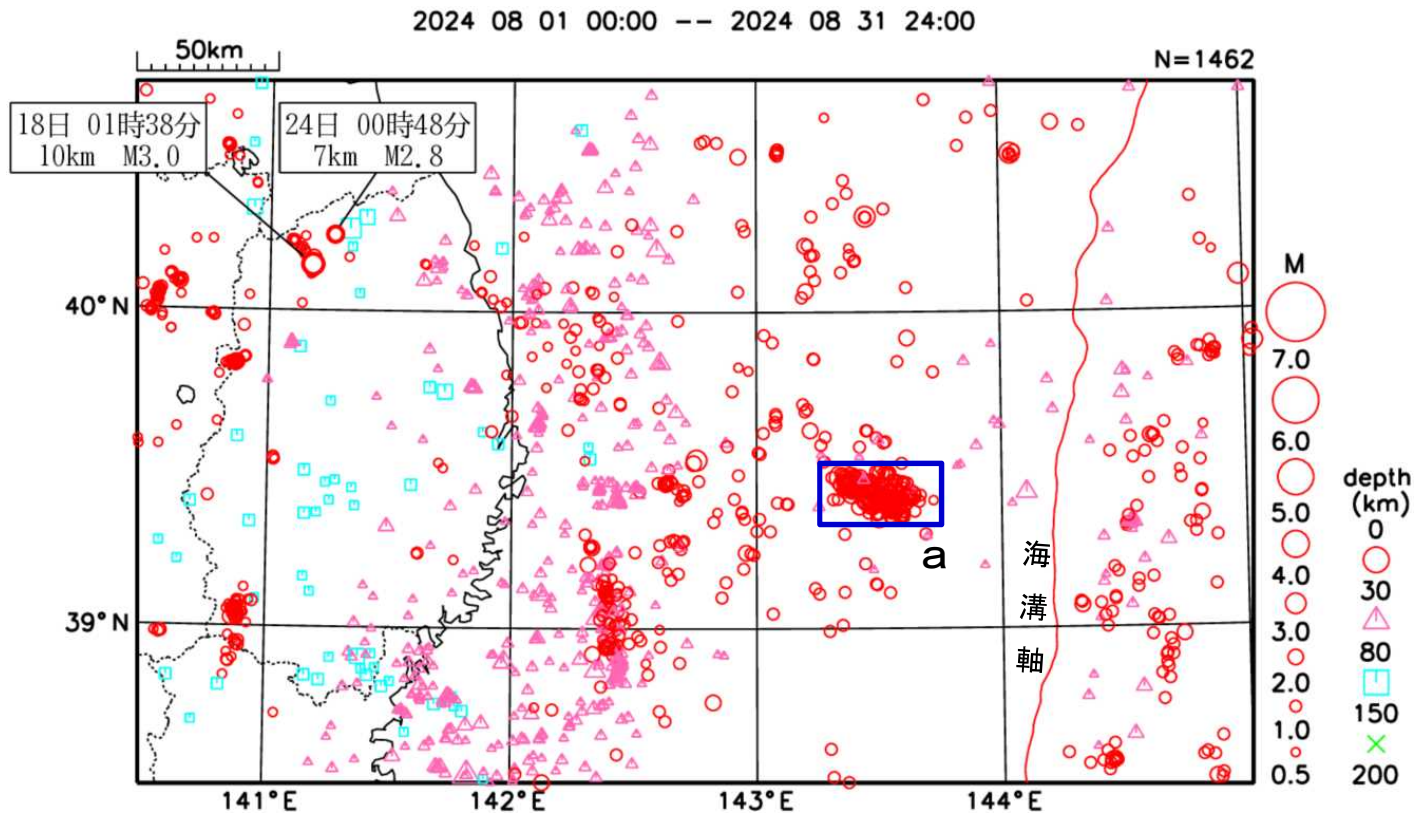


岩手県月間地震概況

2024（令和6）年8月

盛岡地方気象台

震央分布図



※吹き出しをつけた地震は概況でふれたものである。

【概況】

今期間、図の範囲内で観測した地震は 1462 回（先月 1508 回）、岩手県内で震度 1 以上を観測した地震は 9 回（先月 21 回）であった。

3 日 07 時 16 分に三陸沖の深さ 15km で M4.8 の地震が発生し、盛岡市で震度 1 を観測した。この地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震の震源付近（図中 a の領域）では 7 月 28 日に M5.5 の地震（岩手県、宮城県で震度 2）の発生後、8 月中旬頃まで地震活動が活発な状況が続いていたが、その後は収まりつつある。

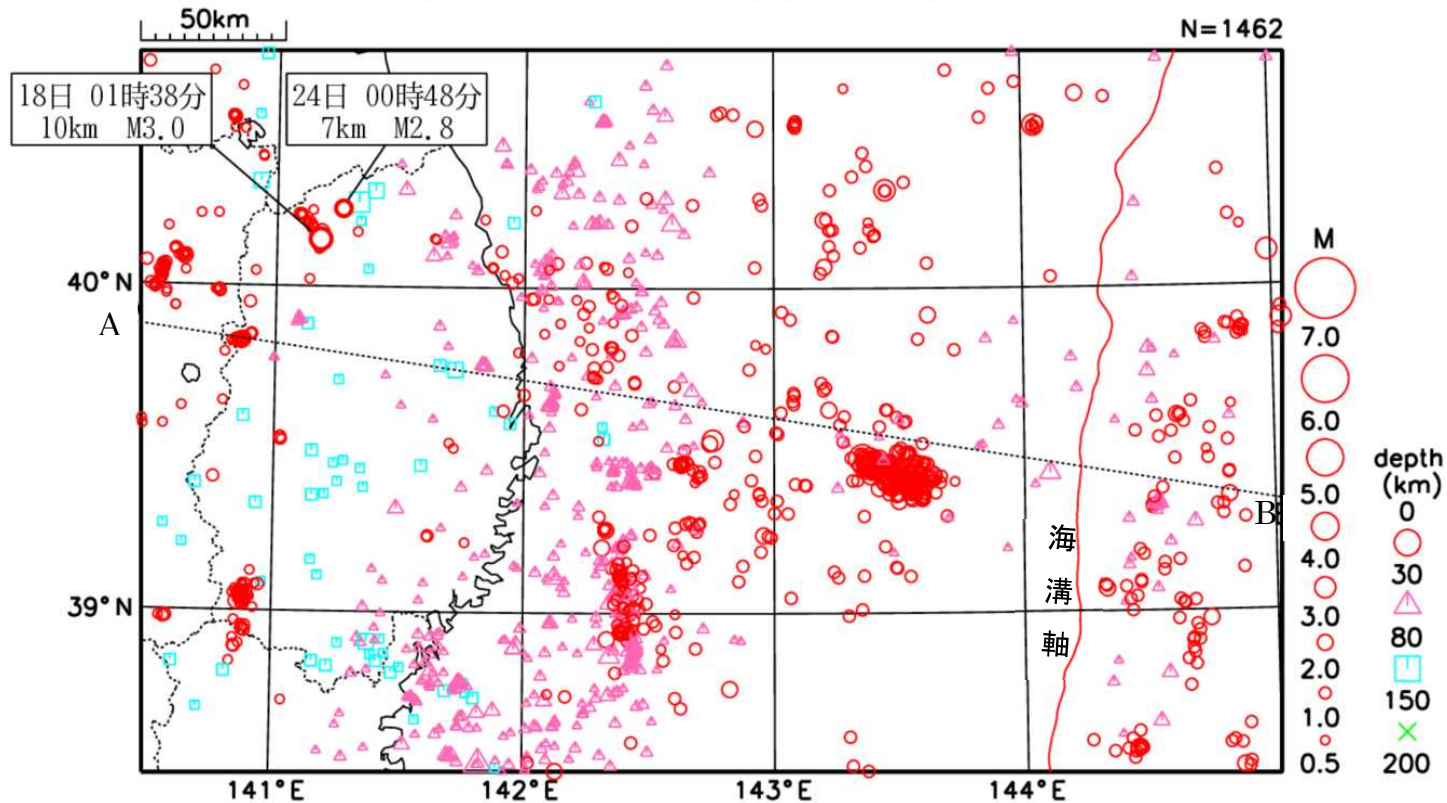
18 日 01 時 38 分に岩手県内陸北部の深さ 10km で M3.0 の地震が発生し、二戸市、八幡平市で震度 2 ～ 1 を観測した。また、6 日後の 24 日 00 時 48 分には同じく岩手県内陸北部の深さ 7 km で M2.8 の地震が発生し、二戸市、一戸市で震度 2 ～ 1 を観測した。これらの地震は地殻内で発生した。

図の範囲外であるが、10 日 12 時 28 分にオホーツク海南部の深さ 447km で M6.7 の地震が発生し、青森県、岩手県で震度 3 を観測するなど、北海道と東北地方（福島県を除く）で震度 3 ～ 1 を観測した。この地震は太平洋プレート内部の深いところで発生した。

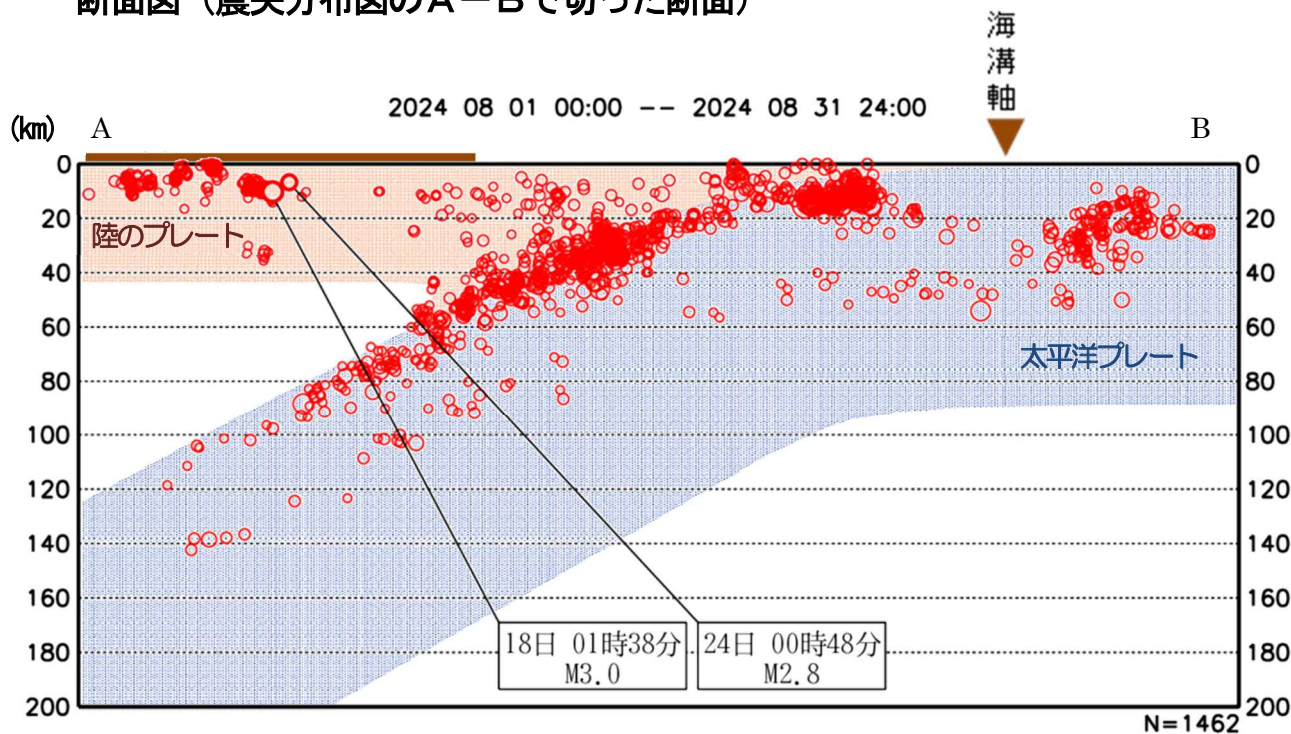
【注】各地の震度の詳細については、「岩手県で震度 1 以上を観測した地震」の表を参照。なお、使用した震源要素等は再調査により変更することがある。

震央分布図

2024 08 01 00:00 -- 2024 08 31 24:00



断面図 (震央分布図のA-Bで切った断面)



※陸地から遠く離れた海域 (概ね陸地から 200 km 以遠) ほど震源の深さ精度は良くない。断面図で見られる沖合の地震の震源は、実際にはより浅いところ (深さ 10~30km) のものが多いと考えられる。

※ ——— は陸地の大まかな位置を示している。

※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

岩手県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2024年 8 月 1 日～2024年 8 月31日

発 震 時	震 央 地 名	北 緯	東 経	深 さ	規 模
各地の震度					
2024年08月03日07時16分	三陸沖	39° 27.9' N	143° 22.9' E	15km	M4.8
岩手県	震度 1 : 盛岡市薮川＊				
2024年08月09日08時31分	岩手県内陸北部	40° 08.7' N	141° 10.7' E	10km	M2.4
岩手県	震度 1 : 二戸市浄法寺町＊				
2024年08月10日12時28分	オホーツク海南部	46° 47.8' N	145° 00.3' E	447km	M6.7
岩手県	震度 3 : 盛岡市薮川＊				
	震度 2 : 宮古市田老＊ 久慈市川崎町 久慈市枝成沢 普代村銅屋＊ 野田村野田＊ 岩手洋野町種市 盛岡市山王町 盛岡市洪民＊ 二戸市浄法寺町＊ 岩手町五日市＊ 一戸町高善寺＊ 八幡平市田頭＊ 八幡平市野駄＊ 軽米町軽米＊ 矢巾町南矢幅＊ 滝沢市鶴飼＊				
	震度 1 : 宮古市鉄ヶ崎 宮古市五月町＊ 宮古市川井＊ 宮古市区界＊ 久慈市長内町＊ 山田町八幡町 山田町大沢＊ 岩泉町大川＊ 岩手洋野町大野＊ 大船渡市大船渡町 釜石市中妻町＊ 大槌町上町＊ 盛岡市馬場町＊ 二戸市福岡 二戸市石切所＊ 雫石町千刈田 葛巻町葛巻元木 八幡平市大更 八幡平市叭田＊ 九戸村伊保内＊ 紫波町紫波中央駅前＊ 花巻市大迫町 花巻市石鳥谷町＊ 花巻市東和町＊ 北上市柳原町 遠野市青笹町＊ 一関市千厩町＊ 一関市室根町＊ 奥州市水沢大鐘町 奥州市水沢佐倉河＊ 奥州市江刺＊ 奥州市胆沢＊				
2024年08月11日09時38分	福島県沖	37° 42.9' N	141° 43.0' E	64km	M4.3
岩手県	震度 1 : 住田町世田米＊ 一関市花泉町＊ 一関市千厩町＊ 一関市東山町＊ 一関市室根町＊ 一関市藤沢町＊				
2024年08月13日05時16分	青森県東方沖	40° 58.8' N	142° 00.3' E	59km	M3.6
岩手県	震度 1 : 久慈市枝成沢				
2024年08月17日09時33分	宮城県沖	38° 32.0' N	141° 49.6' E	49km	M4.6
岩手県	震度 2 : 大船渡市猪川町 住田町世田米＊ 一関市大東町 一関市千厩町＊ 一関市室根町＊				
	震度 1 : 宮古市区界＊ 宮古市田老＊ 大船渡市大船渡町 大船渡市盛町＊ 陸前高田市高田町＊ 釜石市只越町 釜石市中妻町＊ 大槌町上町＊ 盛岡市薮川＊ 北上市柳原町 北上市相去町＊ 遠野市青笹町＊ 一関市竹山町＊ 一関市花泉町＊ 一関市東山町＊ 一関市藤沢町＊ 一関市川崎町＊ 平泉町平泉＊ 奥州市江刺＊ 奥州市前沢＊ 奥州市衣川＊				
2024年08月18日01時38分	岩手県内陸北部	40° 08.6' N	141° 10.5' E	10km	M3.0
岩手県	震度 2 : 二戸市浄法寺町＊				
	震度 1 : 八幡平市叭田＊				
2024年08月18日15時49分	岩手県沖	39° 50.3' N	142° 36.3' E	35km	M3.9
岩手県	震度 1 : 宮古市田老＊				
2024年08月24日00時48分	岩手県内陸北部	40° 14.3' N	141° 15.9' E	7km	M2.8
岩手県	震度 2 : 二戸市石切所＊ 一戸町高善寺＊				
	震度 1 : 二戸市福岡 二戸市浄法寺町＊				

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。
各地の震度は岩手県のみを示し、＊は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

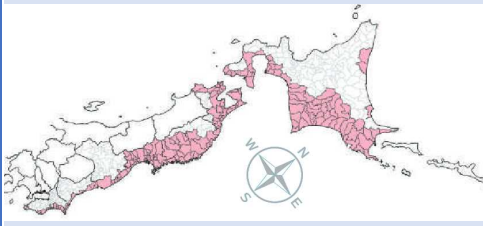
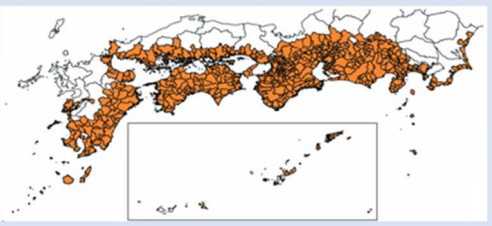
北海道・三陸沖後発地震注意情報 と南海トラフ地震臨時情報

気象庁は、2024年8月8日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を初めて発表しました。この発表を受けて、南海トラフ地震防災対策推進地域では、日頃からの地震への備えの再確認や、地震が発生した際にすぐに避難できる準備などが呼びかけられました。この呼びかけは、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された際の呼びかけと同じです。そこで、南海トラフ地震臨時情報と比較しながら、あらためて、北海道・三陸沖後発地震注意情報について解説します。

想定される巨大地震と防災対応が必要な地域

南海トラフ地震臨時情報が対象としている地震は、南海トラフ地震という東海地方から九州にかけての太平洋側の沖合での発生が予想されている巨大地震です。対して、北海道・三陸沖後発地震注意情報が対象としている地震は、三陸沖から北海道の太平洋側の沖合（日本海溝・千島海溝沿い）での発生が予想されている巨大地震です（表1）。いずれの地震も、強い揺れと巨大な津波により、甚大な被害が想定されています。そして、この被害を少しでも軽減するための情報として、北海道・三陸沖後発地震注意情報や南海トラフ地震臨時情報が運用されています。

表1 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報が対象としている想定地震

	北海道・三陸沖後発地震注意情報	南海トラフ地震臨時情報
想定する最大クラスの地震の規模	Mw9.3（千島海溝モデル） Mw9.1（日本海溝モデル）	Mw9.1
想定震源域・ 想定最大震度・ 想定津波高など		
被害想定（最大）	死者・行方不明者 約199,000人	死者・行方不明者 約323,000人
防災対応が 必要な地域		

- ※ 地震の想定等は、内閣府中防災会議により南海トラフ地震防災対策、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策のために行われた検討会・ワーキンググループ等の報告による。
- ※ 被害想定（最大）は、それぞれの地震の被害想定に関する報告の中で、最悪のケースとされている数値を記載。
- ※ Mw：モーメントマグニチュード（地震波形全体を詳細に解析することで得られるマグニチュードで断層の面積と断層すべり量の積に比例する。物理的な意味が明確で、M8.0を超える地震に対しても適切な値を求められるという特徴がある。）

北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の違い

北海道・三陸沖後発地震注意情報も南海トラフ地震臨時情報も、巨大地震の発生可能性が高まっていることをお知らせする情報であるという点では同じです。しかし、南海トラフ地震臨時情報は、状況によって呼びかける内容が異なることから、それに応じたキーワードを付して発表するのに対して、北海道・三陸沖後発地震注意情報にはキーワードは無く、発表された際に呼びかける内容は固定となっているという大きな違いがあります（表2）。

表2 北海道・三陸沖後発地震注意情報と南海トラフ地震臨時情報の発表条件と呼びかけ内容

情報名（キーワード）	発表条件	呼びかけ内容
北海道・三陸沖後発地震注意情報	・想定震源域及びその周辺でMw7.0以上の地震が発生	・日頃からの備えの再確認 ・すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	・想定震源域及びその周辺でMw7.0以上の地震が発生（南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）に該当する場合を除く）したと評価 ・想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価	・日頃からの備えの再確認 ・すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	・想定震源域内のプレート境界でMw8.0以上の地震が発生したと評価	・事前避難 ・日頃からの備えの再確認 ・すぐに避難できる態勢の準備
南海トラフ地震臨時情報（調査中）	・南海トラフ沿いの大規模な地震と関連する可能性がある現象や地震を観測し、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催	なし
南海トラフ地震臨時情報（調査終了）	・「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」により、観測された現象が（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）の発表条件に当てはまらないと評価	なし

北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときは何をすればよい？

情報が発表されて、防災対応が呼びかけられている間（発表から1週間程度）、通常どおりの生活（学校に行ったり、仕事をしたり）を送りつつ、普段より巨大地震の発生に注意し、**日頃からの地震への備えの再確認、すぐに避難できる態勢の準備などを行ってください。**

日頃からの地震への備えの具体例としては、水や食料の備蓄や簡易トイレ、防寒具などの避難生活に必要なものの再確認、避難場所・避難経路や家族との連絡手段の再確認、家具の固定や高い場所にある物の転倒・落下防止対策の再確認などがあります（図1）。



図1 日頃からの地震への備え（リーフレット「日本海溝・千島海湖沿いの巨大地震」より）

また、すぐに避難できる態勢の準備の具体例としては、避難情報を確実に取得できるようにしておく（スマートフォンや防災無線受信機等の音量アップなど）、スマートフォン等の情報を取得できる機器の予備バッテリーの準備、屋内の安全な場所での生活（がけに近い部屋から離れるなど）、非常持ち出し品の常時携帯（就寝時でもすぐに持ち出せるように準備）、すぐに逃げられる服装での就寝などがあります（図2）。



図2 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたときの防災対応
(リーフレット「日本海溝・千島海湖沿いの巨大地震」より)

なお、北海道・三陸沖後発地震注意情報や南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されているからといって、防災対応が必要な地域（情報の対象地域）への旅行や出張を中止しなければならない、というわけではありません。普段より巨大地震発生の可能性が高まっているとはいえ、発表期間の1週間に発生する確率は100回に1回程度[†]です。ただし、緊急情報の取得態勢の確保に加えて、訪問先の市区町村からのお知らせや交通状況、宿泊先や施設等の営業状況を事前に確認し、適切な行動を心がけるようにしてください。

[†]世界の大規模地震のデータより、過去100年程度の間（1904～2017年）に発生したMw7.0以上の地震1,477回のうち、発生後7日以内に、その地震が発生した場所から500km以内の領域でMw7.8以上の地震が発生したのは17回であり、発生頻度は100回に1回程度である。なお、最初の地震がMw8.0以上の場合は104事例で、そのうち9事例でMw7.8以上の地震が発生している。

日頃からの地震の備えを忘れずに！

北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表期間の1週間に、大きな被害を伴うような大地震が発生しないことがほとんどです。たとえ、情報発表時に地震が起こらなかったとしても、「空振り」と捉えるのではなく、防災意識の向上につなげる「素振り」（＝良い練習ができた）と捉えましょう。また、何の前触れもなく巨大地震が発生する場合があります。**突発的に大きな地震が発生した場合に備えて、日頃から地震への備えを徹底しましょう。**そのうえで、「北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された時には、その備えを再確認するようにしましょう。